

慢性腎臓病患者では減塩により心臓血管病リスクが低下する可能性あり

慢性腎臓病患者は、一般集団と比較して心臓血管病のリスクが高いことが知られている。しかし、これまでに食事からのナトリウム摂取と心臓血管病のリスクについては矛盾した結果が示されており、慢性腎臓病患者におけるこの関連性については検討されていない。本研究では、慢性腎臓病患者の尿中ナトリウム排出量と心臓血管イベントとの関連について評価した。

米国 7 施設において実施されている前向きコホート研究に登録された慢性腎臓病患者 3,757 例を 2003 年 5 月～2013 年 3 月まで追跡した。補正ナトリウム排泄量の最高四分位群（4,548mg/24h 以上）と最低四分位群（2,894mg/24h 未満）で心臓血管イベント累積発生数を比較すると、心不全が 23.2%対 13.3%、心筋梗塞が 10.9%対 7.8%、脳卒中が 6.4%対 2.7%であった。多変量解析による最高四分位群の最低四分位群にたいする調整ハザード比は、心不全で 1.34(p=0.03)、脳卒中で 1.81(p=0.02)であった。

したがって、慢性腎臓病患者では、尿中ナトリウム排泄量高値が心臓血管病リスクの増加と関連することが示された。

出典：Journal of American Medical Association. 2016; 315(20): 2200-2210